

**臨床福祉専門学校**  
**柔道整復学科 平成 26 年度 第二回教育課程編成委員会 議事録**

日時：平成 27 年 3 月 9 日（月） 15：00～14：00

場所：臨床福祉専門学校 202 教室

出席委員及び所属

岡部 洋興（鶴川接骨院院長）  
豊島 公（東京都柔道整復師会北多摩支部参与）  
藤巻 有久（石川島記念病院整形外科医）  
中島 嘉和（臨床福祉専門学校 柔道整復学科長）  
荒井 一彦（臨床福祉専門学校 柔道整復学科）  
萬崎 保志（臨床福祉専門学校 事務次長）  
樋口 豊朗（臨床福祉専門学校 教務主任）

1 中島学科長挨拶

- ・ 前回の委員会同様、委員の意見を取り入れながら、教育課程の編成を行いたい。  
前回会議の場における検討事項・今後の取り組みについて忌憚のない意見を求める。

1 平成 26 年度中の取り組みについて

- ・ 江東区との連携

前回の委員会以降、江東区の健康スポーツ講座に協力の依頼を行った。

12 月 21 日（日）・2 月 15 日（日）

江東区からの提案によりスーパードッジボール大会に本校専任教員と学生を派遣した。

当日は応急処置として 30 件程度の処置をした。

（意見交換）

- ・ 柔道整復師の免許を持っていない学生が応急処置をすることはできない。  
故に外部との連携、実習という観点で、職業実践専門課程としての位置づけは難しい。
- ・ 上記大会のように地域との連携を授業科目として導入することは可能か。
- ・ 当日（過去）に発生した大会時のケガのデータを事前に集め、状況を把握する。
- ・ 救護班としての位置づけを再確認する。あくまでメディカルスタッフの手伝いのみかどうか。
- ・ 再発防止としての講習、相談の場を設けたり、ケガの予防としてテーピングを巻くだけでも実習の観点の一つとなる。

- 当日の大会参加人数を含めて学校からの派遣人数が少ない。  
依頼されている要派遣人数に応えた人数を派遣しないと実習として成り立たない。  
その為には、学生への義務付け、年間行事に組み込めるかが課題。
- 江東区の運営スタッフの派遣要請としてはママさんバレー等他にもある。

(まとめ)

- 江東区健康スポーツ公社に依頼をして、年間行事の提出を促し把握をする。
- ボランティアを行うなら学生に何の競技を望むか、土・日に参加する事が可能かアンケートをとる。
- カリキュラム上の臨床実習の一環として義務付け、単位に組みこむ。